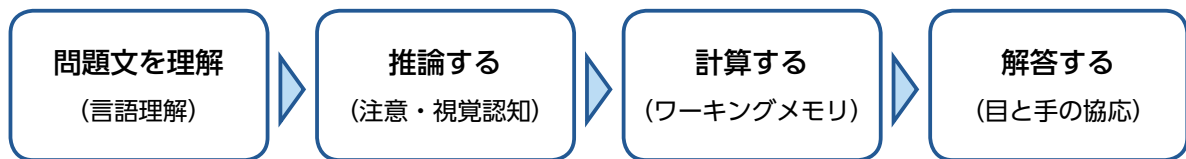


1. 基本的な考え方

1. 認知機能は、脳の特定の場所に位置し、それぞれある意味、独立している。
※ある機能が高いとしても一見、それに似た機能が高いとは限らない。
2. 子どもは認知機能が発達途上であり、一人ひとりの認知機能はそれぞれ発達速度が異なる。
3. 人間のあらゆる活動は、いくつかの認知機能を使って行われる。
4. 複雑な活動は、段階的に複数の認知機能を使うため、そのどれかの認知機能が低いと最終的な成果は、そのレベルに左右される。

例) 文章題を解く場合の認知機能



→ どこでつまずいても正答に至らない

→ 子どもがどのプロセスでつまずくか (どの認知機能が不十分なのか) を知ることで支援のポイントが見えてくる。

出典: 「WISC-IVによる発達障害のアセスメント」上野一彦他、日本文化科学社」

5. 何かができない、あるいは、特異な行動は、特定の認知機能の弱さ (または感覚の過敏) が関係していると考えると理解できる。

2. 脳バランス キッズを使ったアセスメント

1) 前頭前野、左脳 (言語)、右脳 (運動と空間認識) のバランス

それぞれのタスクがどの認知機能に関係しているかを知ること、結果を読み取ることができる。

前頭前野関係のタスク

- ・ フラッシュライト: 短期記憶、ワーキングメモリ
※位置、色、音でそれぞれを弁別できるので、その子が何をてがかりに覚えているのかで、視覚優位、聴覚優位等が分かる。
- ・ しかくたんさく: 視覚性注意
※タスクのステージ3ではワーキングメモリも必要。
- ・ もぐら: 運動性注意、抑制力
- ・ スピードタッチ: 抑制力
- ・ さめがめ: 遂行機能、空間認識

左脳 (言語) 関係のタスク

- ・ はじめのもし: 語彙の量
- ・ わたしはだれ: 語彙の質、ものの属性
- ・ ききことば: 文の構造
- ・ ことば: カテゴリー

右脳 (空間認識、運動) のタスク

- ・ ジャストフィット: 二次元の空間認識
- ・ りったいフィット: 三次元の空間認識
- ・ ブロック: 数、想像力 (見えないブロックの認識)
- ・ くるま: 目と手の協応

2) 脳バランス キッズへの取組の観察

数値として現れるものの他に、取り組んでいる様子を観察することで、その子の特性が分かる。できていても苦労している、こんなことができるんだ、など等。

3. 脳 balanser キッズの導入方法

1) 初期設定

管理モードに入り、子ども一人ひとりの情報を以下のように登録する。

基本情報

- ・ 名前 … ニックネームまたは本名。
- ・ グループ … 同じ時間帯に使用する子どもは同じグループにしておく。
- ・ 生年月日 … 正しく記入する。
- ・ 管理番号 … 必要に応じて記入する。未記入でも可。

設定

- ・ 基本設定：ログインパスワード … チェックを入れる→利用者選択の時に、パスワード（誕生日）を使うようにする。
※誕生日の理解ができない子の場合はチェックしない。
- ・ モード設定 … 最初はノーマルモードのままにしておく。
- ・ レベル設定 … 子によって難易度が高すぎるとする場合、そのタスクにチェックを入れる。
- ・ レベル設定：もぐらたたき … 子によって、スピードを調節する。
- ・ 基本設定：失敗音設定 … エラー音がきらいな子には音を変える。または、無音にする。
- ・ 基本設定：読み上げアイコンの表示 … 多動の子など、スピーカーマーク（読み上げアイコン）を押したくなる子の場合、非表示にする。

グローバル設定：保存フォルダの設定

- ・ 複数台のパソコンでデータを共有して使用していない場合は、この項目には触れないようにします。
複数のパソコンで使用している場合は、利用者の記録データを記録する保存フォルダを設定してください。
※設定方法は、「脳 balanser キッズ 取扱説明書」をご参照ください。

2) 初期アセスメントとかんたんモード設定

1. 初回の取り組みの間、自由に取り組ませる。途中、1回はバランスチェックを選び、3種類の基本タスク（フラッシュライト、ききことば、ジャストフィット）を行う。
2. 一人ひとりの基本情報画面で、その子の適度なバランスを確認する。
取り組み2回目で、一定以下（指数60以下）の項目があったら、そのタスクはかんたんモード設定にしておく。
その後、だんだんタスクが増えていく場合も、定期的に確認し、同様にかんたんモードに切り替える。
また、かんたんモード設定のタスクが80以上になったら、かんたんモードをオフにする。

3) 定期的アセスメント

1か月に1回程度、子どもの過去1か月間の取組状況とそれ以前からの変化を確認する。主な留意点は以下の通り。

- ・ 大きく改善したタスクがある … 子どもと保護者に対して、こういう力がついたと説明し、自信をもってもらうようにする。
- ・ 指数が70以下で推移しているタスクがある … その力がないことを前提に、支援の際の環境調整を工夫する。個々のタスクごとの対処方法については、「ほうかごアシスタントガイドブック」を参考にする。
- ・ 指数が下降しているタスクがある … 何かの原因で、脳 balanser キッズへの取り組み、あるいは施設での活動に対して、意欲が低下している可能性がある。原因を調べ、対処する。